

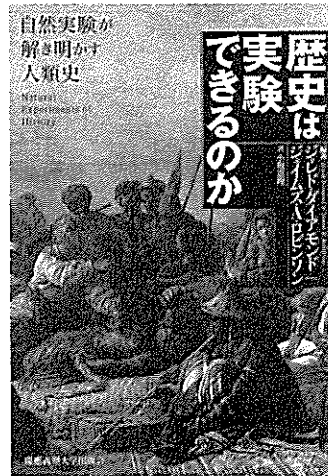
この一冊

歴史学は、理科の研究室のような操作の実験が不可能な学問である。しかし、比較や計量的手法や統計は、歴史の研究でも用いられることが多い。多くの歴史学者は自然実験の類に懐疑的であり、史料を読みこむ実証や叙述による特定の地域や国の研究を得意とする。本書の執筆者11人のうち、2人以外は経済学や経営学や地理学など異分野から比較的手法で歴史研究に挑戦している。

古代ポリネシア人から派生したハワイやマルキーズ諸島の人びとが古代国家をつくりながら何故に文字を発達させなかったかを問う方法と、2005年の民間銀行のローンが日本ではGDPの98%なのにシエラレオネでは4%に過ぎないのを考える

歴史は実験できるのか

J・ダイヤモンド、J・A・ロビンソン編著



原題—NATURAL EXPERIMENTS OF HISTORY
 (小坂恵理訳、慶応義塾大学出版会・2800円)
 ▼ダイヤモンド氏は進化生物学者。ロビンソン氏は政治経済学者。

定量的手法がもたらす発見

手法は、テーマの違いに惑わされなければ基本的に歴史学の古典的な手法でも説明できる。

他方、巨大なモアイ像のあるイースター島で社会が崩壊するほどの森林破壊が行われた理由を説明するには、統計的処理を必要とする。歴史学者が注目しない火山噴火や遠方から運ばれた火山灰の果たす役割、降水量と気温のデータを考えないと森

林破壊の背景を理解できない。アフリカの奴隷貿易はどうか。統計的処理をすると、かつて奴隷が輸出された地域は、されなかった地域より今では貧しい傾向が強いこともわかる。しかし、奴隷貿易が経済的相違を引き起こしたのであり、その逆ではないという結論は古典的な歴史学でも容易に導き出されるものだ。また、インドで英国政府が直接に

統治した地域は、間接統治の藩王国地域よりも今日では学校や舗装道路が少なく識字率や電気普及率が低い。比較や統計的処理によるアフリカの奴隷貿易とインドの教育・電気の普及度の分析がもたらす結論は、意外に常識的なのである。

とはいえ著者らは、結論にたどりつくプロセスや影響度についての定量化こそ「実験」だと言いたいのだろう。奴隷貿易がなければ一人あた

りの所得平均は、2679ドルから158ドルの間になり、世界の他の国とのギャップの12%から47%は存在しなかったことになる。この驚くべき発見をもたらす定量的実験の手法に古典的な歴史学も謙虚でなければならぬ。

【評】武蔵野大学特任教授

山内 昌之

読書